

**別海町まちづくりアンケート調査
報告書
(各種団体)
【概要版】**

平成 30 年 5 月

別海町

団体別調査結果の概要

1 産業・経済関係団体のまとめ	1
2 福祉・まちづくり関係団体のまとめ	2
3 教育・文化・スポーツ関係団体のまとめ	3
4 青年・女性関係団体のまとめ	4
5 町内会のまとめ	5

1 産業・経済関係団体のまとめ

■課題

産業・経済関係団体において、関係者の高齢化や、後継者及び従業員が不足している傾向があります。今後は、人材の確保を図るとともに、家族経営の農家においても安定的で持続可能な営農活動ができる体制づくりや規模拡大を図る農家等に対しての雇用確保も課題となっています。

また、人口減少や消費購買力の流出が、商業の売上減少につながっていると想定される中で、町外の人々に来訪してもらえよう取組を進めていく必要があります。しかし、こうした中で町内の宿泊施設が減少していることも課題の一つです。

■行政に望むこと

産業・経済関係団体が行政に望むこととして、担い手確保に向けた取組の支援が挙げられます。このためにも、別海町へ定住することのメリットを町外へ発信するためのインフラや、行政サービスの充実が求められています。

ほかにも、関係団体間によって連携を推し進める際の支援や、財政支援、経営支援といったことが求められています。

■今後のまちづくりへの要望・提案

今後、まちづくりを重点的に進めていく分野については、バランスよく進めてほしいという意見と、「医療」「教育・文化・スポーツ分野」に重点を置くべきだという意見がありました。

具体的な要望や提案としては、「別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を担当する専従部署を庁舎内に設置してほしいという要望や、「別海町都市計画」を策定してほしい、農村地域で複式教育となっている現状を見据えて、地域の教育力を高めるための方策を検討したらよいのではといった提案がありました。

そのほか、外国人観光のインバウンドへの対応として宿泊施設や公共施設へのフリーWi-Fiの整備や市街と辺地との情報インフラの格差是正、6次産業化への支援、観光資源の構築と整備などの要望が挙げられています。

■自由意見

自由意見として、別海町内における各種イベントが増加していることを機に、町外の方々へのPRを積極的に行ってほしいという内容がありました。また、町全体が一体感を持ち、町民同士による交流が深まれば、地域の抱える課題に対し、皆で解決に向かうことができるのではないかという意見も挙がりました。

2 福祉・まちづくり関係団体のまとめ

■課題

福祉・まちづくり関係団体においては、各種団体活動、ボランティア活動に対する新たな参加者が少なく、活動の参加者や会員が高齢化及び減少傾向にあり、活動内容の縮小や停滞が生じているため、新たな参加者確保が課題です。

また、広大な土地面積を有する別海町内で住民活動を行う際、市街地と市街地以外では、住宅間の距離の違い等があることから、同様の活動を実施することが困難です。こうした地域差を踏まえて、どのように活動を展開させていくかも課題です。

■行政に望むこと

行政に望むこととして、活動を行うための交通手段の確保や、自団体の取組では解決できない地域課題への対応などが求められています。そのほかに、活動に使用する器具の購入支援や補助金額の見直しを求める声もありました。また、地域包括ケアを福祉の分野だけに限定せず地域全体で取り組めるようにする中で、ボランティアに期待することを明確に示してほしいと、行政との協働の指針を求める意見もありました。

■今後のまちづくりへの要望・提案

今後のまちづくりへの要望・提案として、若者の人口流出の抑制や U ターンの促進を図るための雇用創出、起業への行政サポートが弱いことから起業支援を充実してほしいという要望も見られます。さらに、高齢化率は低いものの、若い人がこの町で暮らしたいと思える要素が乏しく、若い人が魅力を感じるまちづくりを進める必要があるという提案もありました。

また、昔のように町民が皆で集まる機会を増やしたり、横のつながりが持ちやすくなるような対話の場を増やすことが挙げられています。

観光分野に力を入れたまちづくりも意見として挙がり、宿泊施設の充実として、郊楽苑の活用や町内に宿泊施設が少ないため、民泊を増やし民泊協会のような組織をつくり、旅館組合と協議したり、パイロットマラソンや産業祭時にはイベント民泊を考えることなどが挙げられています。

また、通院等乗合ハイヤーが試行運行されていますが、乗車対象とならない人が多くいるため、更なる公共交通の充実が求められています。

■自由意見

自由意見として、障がいのある方が安心して生活できるまちづくりを進めてほしいという内容や、町職員の方々に対し、一人ひとりが自分たちも町民だという自覚を持ってほしい、ボランティア活動にも関心を持ってもらいたい、アンケート調査の期間や期限の余裕を持ってほしいという意見が挙がりました。

3 教育・文化・スポーツ関係団体のまとめ

■課題

教育・文化・スポーツ関係団体では、会員や団員が減少傾向にあるほか、高齢化による活動の鈍化が進んでいます。これにより、一大イベントである「遊ぼっと」の開催が厳しい状態にあるなど、従来のイベント開催が危うくなっていたり、役員を引き受けてくれる人がおらず固定化しているという現状もあるため、いかに会員の増加に取り組んでいくかが課題です。

■行政に望むこと

行政に望むこととして、活動の場や人材不足について支援や協力を求める意見が多くありました。例えば、子どもの遊び場をどうするかについて地域で一緒に考えていきたいという内容や町民が気軽に利用できる「トレーニングルーム」等の整備という内容です。人材不足については、団員数や会員数減少によってスケートリンク造成者が不足しているため、協力してほしいという内容や、仕事しながらのボランティア活動には限界があるため、例えば退職者を有効活用して役員になってもらったり、協力してもらったりする組織づくりを先導してほしいという内容が挙げられていました。

また、行政から期待することを示してほしいと、行政との協働の指針を求める意見もありました。

■今後のまちづくりへの要望・提案

今後のまちづくりへの要望・提案として、少子高齢化を見据えたバリアフリー施設や老若男女が利用しやすい時間帯に開放できる施設を拡充してはどうかという提案や、父母の負担軽減を配慮した少年団活動における遠征時の町営バスの利用を求める要望がありました。

また、人材の面では、今後のまちの担い手を積極的に若者に引き継いでいってはどうかという提案や、一つにまとめるのが非常に下手な町なので、地区のリーダー的な人に懸命に取り組んでもらえるよう、町が支援するべきではないかという提案も見られました。

■自由意見

自由意見として、保護者負担軽減や地産地消といった点を考慮した給食費の無償化の提案や、町営バスの利用申請の際に制約がありすぎて、競技によって大会条件も変わるので特性を考慮してもらおうなど、活用を広げていく発想をしてほしいという意見もありました。また、子どもたちの将来を見据え、30年から50年先を見据えた取組を進めるべきという意見も挙がりました。

4 青年・女性関係団体のまとめ

■課題

青年・女性関係団体の多くで、高齢化などにより部員が減少傾向にあります。また、後継者不足や働き手が不足しているといった声もあるため、今後は人材をいかに確保していくかが重要な課題です。

■行政に望むこと

青年・女性関係団体が行政に望むこととして、イベントに関する内容がみられました。一つは、広大な土地面積を有する別海町において、町民の交流を促進するために、地区ごとではなく町全体による町民参加型イベントの提案です。もう一つは町のホームページやSNS、広報誌を利用して、イベントにおける出店の告知を行いたいという要望でした。また、町の意向に沿う事業を行った際には、何らかの補助があるとよいという意見もありました。

■今後のまちづくりへの要望・提案

今後のまちづくりへの要望・提案として、子どもたちに町の素晴らしさを感じて成長してもらい、地元で仕事に就いてもらいたいという意見がありました。そのための具体的な提案として、子どもたちも含めた講習会やイベントを通じた地元文化の伝承、スポーツ大会の開催や指導者の拡充、新規事業への補助や空き店舗の利用など若手経営者支援といった内容が挙げられていました。

医療に関しては、別海市街まで1時間かかる場所であると、特に夜間・休日の受診は、小さい子どもがいたり、冬になると本当に困っており、広い別海町では場所によって、町外の病院の方が便利が良いが町外では受診できず、子どもの状況によって、町外でも受診できるようにしてほしいという要望がありました。

また、どのようなまちづくりを進めるにしても、町民参加型として町民の関心を惹きながら、参加者と連携を図って進めていくべきであり、町民の参加協力なくして、町の行政は進まず、町民の代表が参加して決めたことを、参加した人が知らないところで変更などされると町民は参加しなくなるという意見もありました。

そのほか、農家と非農家の方々による交流会を開催することによって、相互理解の促進や、後継者対策につながるのではという提案がありました。

■自由意見

自由意見として、町民との連携を図りながらまちづくりを進めることを求める要望や、酪農をしていると迎えに行けないため子どもは部活ができず、子どもが部活動に取り組めるよう、バスによる送迎を求める意見がありました。

5 町内会のまとめ

■課題

高齢化とともにいわゆる限界集落の傾向にある地域もあり、町内会では、会員数が減少傾向にあります。こうした中で、新たな役員の担い手がない、従来取り組んできた事業の継続が困難といった現状があり、今後は町内会未加入者への加入促進をいかに図るかということなどが課題です。

■行政に望むこと

行政に望むこととして、町内の要援護者に関する情報共有が挙げられています。大災害でライフラインが完全に停止した場合に、単身の高齢者や障がい者等の救援活動を行政主導で町内会が迅速に行うためにも、個人情報保護法などの法令を守りつつも、行政と町内会が協働できるような対応が求められています。また、高齢者の移動手段確保や、道路の整備、防犯灯やスケートリンクの管理といった要望も挙げられています。

■今後のまちづくりへの要望・提案

今後のまちづくりへの要望・提案として、教育に関わる提案が多くありました。一つめは、基幹産業についての授業を学校教育に取り入れるという内容であり、二つめは、スケート選手として別海高校ではなく道内外の高校へ進学している実態があり、別海高校への入学者を増やすためにスケートの指導教員を採用するというもの、三つめは、特別支援学校の誘致を積極的に推進するという内容です。

そのほか、地域生活バスの休日運行といった要望や、町議会の活性化に向けて議員報酬を含め検討してはどうかという提案もありました。

■自由意見

自由意見として、図書館の休館日が他の地区よりも多く、閉館時間も早いため、週に一度程度 20 時まで開館したり、視聴覚ホールなど既存施設の活用法を検討してはどうかという提案がありました。そのほか、別海町役場における職員の窓口対応について、それぞれ良い点・改善点を指摘する意見もありました。

報告書内の文章は、記入された方の意図がそのまま伝わるよう、可能な限り原文を尊重して掲載していますが、明らかな誤字・脱字と思われる字句は修正しています。

別海町まちづくりアンケート調査報告書（各種団体）【概要版】

発行年月：平成 30 年 5 月

発 行：別海町

編 集：別海町 総合政策課

住 所：〒086-0205

北海道野付郡別海町別海常盤町 280 番地

電 話：0153-75-2111（内 2213）

F A X：0153-75-0371